

2023年度(令和5年度) 光学区防災訓練

光学区自主防災協議会では、昨年度の防災訓練で広島県の「自主防災組織による避難の呼びかけ体制づくりマニュアル」を参考にワークショップを行ない、各町内会ごとに「避難の呼びかけ体制づくり」について検討しました。

今年度の防災訓練は、その検討した内容について実践する訓練を行なうことにしました。

*「避難の呼びかけ体制」とは、住民に早めの避難を促すため、呼びかけを開始するタイミングや方法などのルールを決めて、自主防災組織が大雨災害に対して効率的で効果的な呼びかけを行う仕組みです。

と き: 11月26日(日) 9:00~

* 福山市総合防災訓練とあわせて行ないます。

想定: 南海トラフ地震が9:00に発生(市内の最大震度6強)

内 容: ①福山市総合防災訓練に準じた行動

- ・ 必須: 身を守るための「3つの安全行動」
- ・ 任意: 避難行動

②2022年度の防災訓練で作成した「呼びかけ体制」の実践とフォローアップ

訓練の合図

緊急速報メール等携帯電話にとどく一斉送信メール

訓練内容

①「福山市総合防災訓練」開始

必須: 各自が身を守るための「3つの安全行動」をとる



任意: 地域で決めた避難場所へ避難(各町内会)

②「呼びかけ体制づくりシート」の実践(各町内会)

自分に置き換えると...思いあたることがありますよね。



この機会に備蓄品などの確認もしておきましょう!



●避難呼びかけの重要性

災害から命を守るためには、土石流や河川氾濫などの災害が発生する前に、災害危険地区から立ち退く必要があります。

具体的には市が指定している避難所や避難場所、親戚の家など安全な場所へ早めに避難することが重要です。

平成30年7月豪雨災害に関する県民の避難行動に関する調査によると避難行動を取らなかった理由

「自分は大丈夫だと思っていた」・「ひとりでは避難を決められなかった」・「周囲の誰も避難していなかった」など、ひとりでは避難を決断できなかったことや、周囲が避難していない様子を見たこと等が避難行動を妨げました。

避難行動を取った理由

「隣の人が避難するのを見たから」・「友人から避難を呼びかけられた」・「近所の人が声をかけてくれたから」など、他者の動向や避難を呼びかけられること等によって避難行動が促されました。

このように、避難を呼びかけあうことより、避難行動に結びつきやすくなるのがわかります。

各町内会で呼びかけ体制・方法を決めています。電話での呼びかけ、訪問での呼びかけ等さまざまな方法があるかと思いますが、「11月26日(日)は訓練の日」とご理解いただき、ご参加・ご協力をお願いいたします。詳しい実施内容については、お住いの町内会へお問い合わせください。

自主防災組織による
避難の呼びかけ体制づくりマニュアル



広島県

* ①は地震想定での行動、②は、大雨洪水想定で作成しており、その時の呼びかけ行動となり、対応が異なるかと思いますが、切り離れた訓練とご理解ください。